

貴重書紹介

『学校用土佐日記讀本』

教科書に採録されることが多く、定番教材の一つである「土佐日記」。皆さんも高校の古典の授業などで読んだ記憶があるのではないのでしょうか。紀貫之が土佐から帰京する旅路の出来事を女性に仮託して書いたといわれる日記文学で、内容は忠実な日記ではなく虚構性の強い文学作品です。教科書によって採録される場面は様々で、授業での取り上げ方も色々。教材研究のテーマとしても取り上げられることの多い作品でもあります。

専修大学図書館所蔵の貴重書の中に『学校用土佐日記讀本』という資料があります。上下二冊の半紙本で、明治17年、樂善堂から刊行された資料です。内閣制度が発足したのが明治18年、教科用図書検定条例が定められたのが明治19年ですので、教育制度や教科書そのものについて整備が進む以前に刊行された教科書ということになります。

内容を見ると、本文にルビや傍注などはなく、しかも崩し字で書かれており、内容や用語の解説は頭注として簡単にまとめられています。巻頭に付された「例言」によると、この教科書は「専ラ初学ノ讀方」ニ宛ルヲ肯トとして作られたとあり、音読用のテキストとしてこのような体裁をとっているようです。「初学」とあるので入門書の一種ですが、同じ「土佐日記」とはいえ、現在の古典の教科書と比べるとずいぶんレベルが高いように感じられます。

さて、同一資料が国立国会図書館、国立教育政策研究所教育図書館にも所蔵されていますが、本学所蔵本について特筆すべきは、

大槻文彦の旧蔵書であつたらしいということです。

大槻文彦は日本初の近代的な国語辞典と言われる「言海」を編纂した人物です。大槻家の旧蔵書は昭和25年、遺族より宮城県図書館に寄贈され、現在も「大槻文庫」として残されています。

本学所蔵の『学校用土佐日記讀本』には、上下巻とも巻頭に「大槻文彦蔵」、下巻末にも「文彦」「大槻文庫」の朱印があります。本文には赤インク、鉛筆による書入れが多数みられ、さらに下巻末には「明治三十五年：夜通読了」ふみひこ」という書入れがあります。辞書の編纂者として知られる大槻文彦ですが、宮城県の師範学校や尋常中学校の校長も務め学校教育にも力を尽くした人物です。から、「学校用」と銘打って刊行されたこの資料にもくまなく目を通したのでしょうか。近代教育の発展に寄与した人物が手に取った資料として、貴重といえるのではないのでしょうか。



寺崎恒就著、芳賀真咲関『土佐日記讀本：学校用』樂善堂、1884 A/090.13/Te62

【展示紹介】

オンラインで見よう！ スノーピーミュージアム・オンライン

スノーピーミュージアムは、2016年4月、六本木での期間限定開館の大盛況を受け、2019年に南町田へ場所を移しリニューアル開館しました。スノーピーがうまれたアメリカ以外では世界初のミュージアムです。開館1周年を記念し、オンラインミュージアムが公開されました。

スノーピーが館内の各コーナーを案内してくれる合間に3本のアニメーションが流れます。最後はミュージアムショップでしか買えないグッズが並ぶオンラインショップでお買い物することができます。館内の巨大スノーピーを上からドローンで撮影した、オンラインならではの映像も公開されていました。ミュージアム全体のかわいい世界観を垣間見ることができ、実際に訪れてみたくなる動画でした。2021年4月5日からは、リニューアルした動画が公開されます。

コロナ禍で多くの施設がオンラインミュージアムを公開しています。世界中の美術館・博物館を体験できるこの機会に、おうちからつながってみませんか？

<https://online.snoopymuseum.tokyo/s/smo/?ima=0000>

【主な参考図書・サイト】

参考図書は図書館に所蔵している本ばかりです。是非 OPAC で検索してみてください。

- ・文部科学省（小学校、中学校、高等学校）
https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm
- ・近代教科書デジタルアーカイブ
<https://www.nier.go.jp/library/textbooks/index.html>
- ・宮城県図書館ウェブサイト
<https://www.library.pref.miyagi.jp/about/collection.html#03>
- ・岡崎勝世『日本における世界史教育の歴史（1-1）「普遍史型万国史」の時代』（埼玉大学紀要。教養学部, 51(2), p.21-64）
<http://doi.org/10.24561/00016008>
- ・中村理平著『洋楽導入者の軌跡：日本近代洋楽史序説』（刀水書房、1993）
- ・中西光雄著『「蛍の光」と稲垣千穎：国民的唱歌と作詞者の数奇な運命』（ぎょうせい、2012）
- ・専修大学編『専修大学百年史』（専修大学出版局、1981）

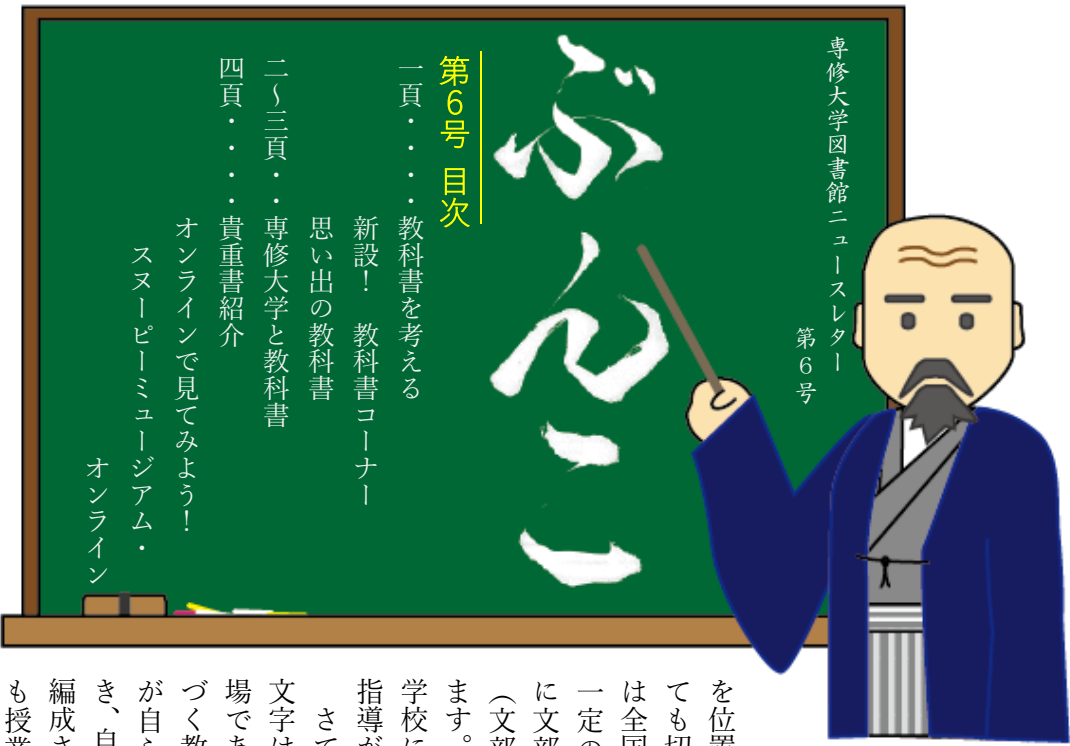


～ちょっとブレイク～

スノーピーに興味がある方には、本学所蔵の「完全版ピーナッツ全集」がおすすめ。1950年から2020年までのスノーピーすべての作品を収録しており、作者直筆の英語と日本語訳を同時に読むことができます。本館 K/726/Sc8/1 ~ K/726/Sc8/25

奥付：専修大学図書館
令和3年3月31日発行
題字：荒川依知

※貴重書のご利用については、「ぶんこ」創刊号をご覧ください。
<https://www.senshu-u.ac.jp/news/nid00006538.html>



第6号 目次

- 一頁・・・教科書を考える
新設！教科書コーナー
- 二～三頁・・・専修大学と教科書
思い出の教科書
- 四頁・・・貴重書紹介
オンラインで見よう！
スノーピーミュージアム・オンライン

教科書を考える

みなさんが高校生まで使っていた教科書。どんなものだったか覚えていますか？教科書とは「あることを学ぶのに適している本」として、学習のために使われる図書です。文部科学省では、「小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及びこれらに準ずる学校において、教育課程

の構成にに応じて組織排列された教科の主たる教材として、教授の用に供せられる児童又は生徒用図書（教科書の発行に関する臨時措置法 第2条）」として教科用図書（以下、教科書）を位置づけており、学校教育とは切っても切れない関係にあります。教科書は全国のどの地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けられるように文部科学省が定めた学習指導要領（文部科学省HPにて公開されています。）に則って作成されており、各学校においては、教科書を中心に学習指導が進められています。

さて、先ほどの条文には「大学」の文字はありません。大学は高等教育の場であるため、文部科学省の定めに基づく教育がなされるのではなく、大学が自ら掲げる教育理念・目的に基づき、自主的・自律的にカリキュラムが編成されています。そのため、教科書も授業に基づき様々なものが利用されています。

専修大学でも様々な教科書を使っています。では、開校当時の教科書はどんなものだったのでしょうか？また、現行の教科書はいづころから使われていたのでしょうか？本号では教科書に焦点をあてて、教科書の歴史にふれてみましょう。

新設！教科書コーナー

令和2年4月より、本館3階情報検索コーナーに教科書コーナーを新設しました。中学校・高校の教科書を取り揃えています。教材研究、模擬授業の資料としてご活用ください。自分が中学生、高校生だったころの教科書を探してみるのも面白いかもしれません。

なお、生田分館より移設した資格関連図書コーナーも併設されていますので、併せてご利用ください。

※Knowledge Base 所蔵の教科書は、分類番号「375.9」に配架されています。
※現行の教科書以外の教科書・複製本は一冊架架に配架されています。



本館3階情報検索コーナーの様子



Knowledge Base では14階の8にあります。

思い出の教科書

教科書で初めて読んで好きになった作家はいますか？ぶんこスタッフおすすめの教科書掲載作品をご紹介します。

★星野道夫「アリューシャン、老兵の夢と闇」（『国語総合』桐原書店、2014年）
★375.9/Ko53/『国語総合331・2012』
アラスカの大自然や野生動物、人々の暮らしを愛した写真家・故星野道夫氏のエッセイ。温かく細やかな言葉で綴られた文章が印象的で、他の作品も読んでみたいと思った作品です。『イニニニク…生命…アラスカの原野を旅する』（新潮社、1998年）
★X/080/Sh61/Hos）などに収録。

★向田邦子「字のない葉書」（『新編新しい国語2』、東京書籍、2016年）
★375.9/Ko47/『国語総合27・2015』
日頃「暴君」であった父親が手紙の中でだけ見せた厳格な姿。そんな父親は、まだ字の書けない妹が疎開に行く時、宛名だけを書いた葉書を持たせた。「元気な日はマルを書いて、毎日一枚ずつポストに入れなさい。」——お父さんのこの発想に驚き、真似してみたくありませんでしたか？『眠る盃（向田邦子全集6）』（文藝春秋、2009年）、
★K/918.68/Mu27/6）に収録。

専修大学と教科書

◆専修大学創立時代の教科書

専修大学の前身である専修学校は、明治13年(1880)に創立されました。その講義形式には、日本語で、口授によって講義を行い、教科書を用いないという特徴がありました。当時多くの高等教育機関では、外国人講師によって英語や仏語で教授され、外国語の原書を教科書として用いることが一般的でしたので、専修学校の講義形式がいかに画期的であったかが分かります。日本語の教科書はまだ極めて少なかったため、創立当初は教科書を用いることができなかったと考えられます。

講義は、先生が話したことを学生が筆記する、という形で行われました。その中で、優秀な学生が筆記したノートに、先生が目を通したものが印刷・出版され、それが教科書となっていました。また同時に、先生自身が外国の著作を翻訳し、それに自らの見解を付記したのも初期の教科書として刊行されました。

ここでは、専修大学図書館に所蔵されている創立期の教科書を紹介します。

相馬永胤講義・専修学校生徒筆記『米国紐育州訴訟法』は、創立者の一人である相馬永胤が、アメリカニューヨーク州の訴訟手続きについて講義し

た内容を、学生が筆記し、出版されたものです。先ほどの、講義を筆記した形で出版された教科書の典型例です。



相馬永胤講義『米国紐育州訴訟法：専修学校教科書』
[専修学校], 1883.2 石井良助文庫 /327.9/So36

駒井重格関・田尻稲次郎訳『ボリユー氏財政論 関税ノ部』は、フランスの財政家ボリユー (Paul Leroy-Beaulieu) の著書『Traité de la science des finances』の一部を、専修学校創立者の田尻稲次郎が翻訳、および所見を併記し、同じく創立者の駒井重格が校閲したものです。専修学校創立直前の明治13年(1880)1月に出版されたもので、「緒言」によると、条約改正に際し、関税自主権の回復が最も重要な議論となり、そのためには外国の関税について

知る必要があるとのことから関税の部をまず翻訳したとあり、かならずしも教科書用に書かれたものではありませんが、講義のテキストとして使用されました。



(上) par Paul Leroy- Beaulieu 『Traité de la science des finances』4. Éd Guillaumin, 1888 /340/756
原書も所蔵しています。ただし、実際に田尻が読んだのは1877年の初版、これは1888年の4版。
(下) ボリユー著・田尻稲次郎譯『ボリユー氏財政論』
関税之部 田尻稲次郎・1880 A/340/B37

◆専修学校の教科書『萬國史略』と明治時代世界史の教科書『萬國史畧』

創立当時の講義科目は、基本的に経済科は経済、法律科は法律、それぞれの科の専門に関する科目が置かれていました。両科共通の唯一の科目に「歴史」があります。歴史は第1学年に置かれた科目で、田尻稲次郎が担当していました。歴史の講義で使われた教科書がここに紹介する『萬國史畧』です。

この『萬國史畧』は、田尻稲次郎講述・専修学校生徒筆記とあるように、先に述べた「先生が話したことを学生が筆

さらに、日本への渡航を希望するメーソンと日本側文部省の代理人として2年間の就任契約を交わし、彼の来日を実現させました。これにより、我が国最初の音楽教科書編纂への第一歩を踏み出したのです。

◆小学唱歌集

音楽教育発展のためにうまれた「音楽取調掛」の最初のミッションは、教材の作成でした。

まずは、メーソンと伊沢による選曲、国語学者による歌詞選定により集められた題材を、メーソンが持ち込んだ手法「掛図」(教室に掲げる生徒全員で見ための拡大された教材)の形にし、生徒達に試験的に歌ってもらいながら修正を重ね、作成しました。

この後、生徒ひとりひとりが手にもって歌える唱歌集としてまとめたものが、日本最初の教科書「小学唱歌集」なのです。

本学図書館の向井信夫文庫に貴重書として所蔵されています。

◆蛍の光

小学唱歌集作成のための選曲では、スコットランド・アイルランドの民謡が多く収集されました。七音が主流となってきた西洋音楽の中で、日本に根付いていた五音階がまだこの地域には残っていたからです。

歌詞については、その当時の教育に合うよう何度も書き換えられています。現在でも有名な「蛍の光」に残る変化は非常に象徴的です。

記」するスタイルで作られた教科書です。「緒言」には、アメリカのエル大学在学中に歴史の授業を受け、その時の講義ノートに加え、フリーメンの『欧州史』やドイルの『米国史』など各種の書を参照して講義を行ったと書かれています。

ところで、明治時代にはこのほかに『万国史略』の書名を持つ教科書がいくつか発行されました。これは明治5年(1871)に定められた学制により、上等小学第4級(12歳)の生徒が「万国史」を学ぶことが定められたことによります。中でも、最も広く使用されていた教科書がここでご紹介する文部省刊行の『萬國史畧』です。

「例言」を、大槻文彦(四頁の貴重書紹介を参照)が書いており、その中で西洋史の部分は翻訳である旨が書かれています。『萬國史畧』の原典はアメリカのグッドリッチ著『パーレー万国史』(Peter Parley's Universal history)であることが定説となっています。内容はアジア・ヨーロッパ・アメリカの三部構成となっており、各所に挿絵が入っています。



(上)田尻稲次郎講述・専修学校生徒筆記『萬國史畧 5巻(存2巻)』専修学校, 1884-1885 A/209/Ta26

(下)師範学校編纂・小川亮標注略解『萬國史畧 2巻』伊藤善太郎, 1877 A/375/B18

上げるために一役買ったこともあったようです。アメリカでは讃美歌、韓国では反日愛国歌として歌われることもあり、様々な形で各国に浸透した「蛍の光」ですが、日本では「小学唱歌集」編纂当初と変わらず、今でも卒業など惜別の歌として、人々に歌い継がれています。

文部省音楽取調掛編纂『小学唱歌集：小学校師範学校中学校教科用書』大日本圖書, 1889 向井信夫文庫 /000/Z00/M3385

